

⑬ 仮卒業、仮修了

同年十一月二十四日、学徒出陣（同年十二月）のため三学年生徒に仮卒業証を、二学年以下の生徒には仮修了証を授与した。

⑭ 学徒出陣

戦況緊迫化に伴って政府は昭和十八年九月、学生生徒の徴兵猶予の停止を決定し、次いで十月二日、勅令を以て「在学徴集延期臨時特例」を公布し、徴兵猶予措置を廃止した。そのため、満二十歳に達した者は一勢に徴兵検査を施行され、同月十二日に閣議決定され



経緯工芸同人出陣壮行会記念（吉田丈夫氏提供）
 前列左より丸山不忘、高村豊周、染川鐵之助、田澤清美、河内三郎、篠井欽司
 後列左より吉田丈夫、田中芳郎、渡辺守治、伊藤豊、辻光典



中塩喜六入隊記念（中野將氏提供）
 前列（坐位）右より原国政哲、手島修、中塩喜六、永田大石、松田博
 後列右より中野將（腕章は「東京美術学校報国際中隊員」）、阿井正典、石塚清明、安田光男、岩田健、小川智

た「教育ニ関スル戦時非常措置方策」に基づいて理工科系および教員養成諸学校の学生を除く一般学生は兵役につくことになった。同年十二月一日には第一回学徒出陣が実施され、学生、生徒たちは一斉に入営（陸軍）、入団（海軍）し、また、それに先き立って十月二十一日、明治神宮外苑競技場で出陣学徒壮行会が行われた。本校も例外ではなく、「各科学徒級別現員表」（910頁）に明らかなように、これより登校者数は激減し、また、登校者たちも長期の勤労働員に従わざるを得なかったため、美術学校としての機能は麻痺した。

次に掲げるのは（一）草野睿三氏（油画科）からの聞き書きと（二）中野將氏（彫刻科）の文である。出征の際も本校生の間には独特のやり方があったようだ。

（一）昭和十八年九月、上級生（四年生）が繰上卒業したため、我々三年生は最上級生となった。その十二月に第一次学徒出陣があったが、我々十五年入学組は十二月「正式には十一月二十四日」に仮卒業となり、軍隊へ行っている最中の十九年九月に自動的に卒業となった。我々だけが卒業制作もせず、追い出されるように卒業させられたのである。

満二十歳以上が動員されるということは新聞で知り、それまでは何も知らされなかった。美校は浪人が多いので、予科生も半

分くらい動員となった。動員と決まるや、各科で壮行会をやり、我々は毎晩騒いだ。暴れたい連中は裸になって、箆の幟を立て、石油缶を叩きながら上野駅構内の広場へ行って騒いだ。ヨカチンも踊った。出陣前なので人々は大目に見たようだが、東京駅まで繰り出した生徒たちは、すっ裸で踊って憲兵につかまった。皇居に近いせいだったらしい。

例の代々木の壮行会には全部参加した。雨の中を独特の旗を立てて行き、目立って仕方なかった。が、さすが美校！ という感じであった。私の場合は兄弟四人とも学徒出陣ということで新聞に出たりした。

十九年一月になると、地方出身者は郷里へ帰ってそこから出兵する。そして、みな散り散りとなった。



昭和18年3月23日、池袋パルテノンのアトリエにおける海軍へ行く生徒の壮行会にて(草野睿三氏提供)草野睿三、八幡健二、野々村一男、宮沢義郎その他本校生、卒業生の外に落語家小さん、講談師大島伯鶴夫人、同息子等々が写っている。

(二)昭和十九年六月一日、いよいよ入隊の当日となり、我が家では親子の別れがあり、父に手伝って造った庭の前で記念の写真を撮った。……上野駅東口広場はすでに各大学の出陣学生と送る者の人波でごった返していた。各校は出陣学生の数も多く、それぞれ円陣を作り、運動部の旗を翻し、そして声を限りに、何時もは歌えない応援歌を唱い、意気軒昂たる熱気にわき返っていた。

その中で我が美校生は征く者十名足らず、送る側も十数名で伝統のボロ服多く、中には何を考えているのか農民一揆の箆旗を担いで寝巻姿の者もいる状態で、余り氣勢が上らない。これでは先輩に申し訳ない、一丁やるかと寝巻姿が、やおら素裸になって「アーリヤララ、一つよかちゃんなんじゃるな……」と気合を入れて腰をふりふり全員で踊り出す始末、周囲もこの奇妙な気違い集団に気付き始め人の環が広がり出した。注目が集まればそれに乗るのが美校生の性、然しやっと調子の出た頃には監視中の鬼より怖い憲兵の目に止まり「カラー貴様らなにしちよる」の大音声でサーベル片手に腕章を巻いた軍服が向って来る様子で、裸の連中は着物を抱いて蜘蛛の子を散らす様に人ごみの中を逃げ回る。その滑稽な様子に腹を抱えながら、私達も捕まるのは面倒と日の丸を背にしょって逃げた。

これこそ美校生の真骨頂と、久し振りの「チャカホイ節」に溜飲を下げて、私達は元気を出して汽車に飛び乗り、上野の山を後にしたのである。

⑮ 日本美術及工芸統制協会